

公民館等職員専門研修

～ 人づくり、つながりづくり、地域の核となる 公民館等施設を目指して ～

R6・10・15 (火) : いわみーる (オンライン会場)

【事例発表】「広瀬の人づくり地域づくりで私が大切にしていること」

安来市広瀬交流センター 主事 **喜多川 由紀** 氏



(発表一部紹介)

○新米主事として、地域と人について考えていたこと

願いは、笑顔あふれる、ぬくもりや安心感のある交流センターに。事業の継続やコミュニティ存続、子どもたちの将来への不安、既存の事業や人との関わりは今までと同じでいい？と思うようになる。

人の動きと流れについて、もうちょっと考えた！

人が動いたりやってみようとするのは、好きなことや興味があること。プラスの感情が生まれなければ次へとつながらない。その人に合った事業への参加や関わりがあるはず。

○その後 (ベテラン?として) 考えたこと

さまざまなことが変化していく中で、自分の立ち位置も変わり、幅広い地域住民との関わりの中で、見えるものも変わっていった。例えば、負担感満載の地域の役割、行事・活動の意義など。そして、交流センターに関わる人の層が違うことに気がついた。

事業の見直しへ (現状や問題から、それぞれの事業を見直す)

- ・事業の意義づけ・価値づけ
- ・会議の回数を減らす
- ・質問しやすい雰囲気づくり
- ・参加しやすい工夫
- ・その事業が大事だと住民に気づいてもらう
- ・自分ごとに etc

同じ土俵にあがるのは、

○今までとこれからを考える (意識してきたこと)

- ・今あるものから考えてみる
- ・動く・知る
- ・まずは、人との関係づくり
- ・情報をキャッチ (聴く) 逃さない
- ・振り返ること、立ち止まること
- ・思いを巡らせる (相手の状況を想像)

喜び > 負担感

地域づくり

地域の土台をどう作っていくかを大事にしている。地域の ひと・もの・こと を様々な角度から見ようになった。一緒に考えてくれる人が増えるように、ヒューマンコミュニケーションを大事にしている



【演習 I】実践発表ふり返り (いいなと思ったこと・聞いてみたいこと)

■いいと思ったこと

<内容の“縮充”について>

- ・内容の変化・充実 (どこを縮小するかを判断) (変えることと変えてはいけないことを判断)
- ・地域 (実行委員) の主体性がある (求めないでも、動いてもらっている)
- ・小さく、少なく事業が変化しているが、逆に盛んに
- ・持続可能な形を目指している



<住民との関係性とかかわり方について>

- ・地域の仲が良好、地域との関係性が高い
- ・目的などを地域の方とふりかえって進めている
- ・価値づけ、意義づけ



■聞いてみたいこと

Q. どうやって意図的にしかけたか?

A. 一生懸命にやっておられるのが伝わってない。それを伝える場の設定を。根まわしはしている。

(一日がかりだった幸盛祭の規模を縮小した。月山の整備などをコロナのタイミングでもう一度ふりかえり、「何を大事にしようか」と考え、子どもたちの記憶に残るものにするように変えていった。)

Q. 事務局が多くて、地域の力をそぐのではないかと感じていたが、「縮充」とはすばらしい。主催事業とのバランスは?

A. 切り離してはいない。どちらにウエイトがあるかは?

【講義 I】「地域の明日のために～しまねの社会教育流儀～」

(講義一部紹介)

東京大学大学院教育学研究科教授 **牧野 篤** 氏

社会教育：人と人の「かかわり・つながり」の土壌を耕す

喜多川さんの立ち位置：社会教育の担い手 (専門職)

○社会教育的アプローチ⇒「自分でやる」を支える

大敵は、面倒・負担感。乗り越えようとすれば、充実感、おもしろい

○自治：自分でやる

(大人が考えると政治的、子どもたちの考える自治は自分でやりながら成長している)

○何が一番大事か? (なぜこの事業がなされているかを考える)

⇒断捨離、不易流行、変わらないためには変わらなければならない

○コロナ禍がおさまリ、徐々に伝統行事やイベントが再開され、これまでの活動の上に、子どもを中心に住民が 結びつく在り方を模索する動きが。

町会 (地域コミュニティ) を持続可能なものとする要素

思い・誇り・意地 よそもの 子ども 伝統行事・伝統芸能 伝統と革新 子どもをお客様にしない 誰もが当事者 地縁関係にこだわらない

社会の基盤を「耕す」社会教育 = 自治の基盤としての社会教育

事例より)「自治」とは何かを教えてください ⇒誇りと他者への思いに定礎された誰もが当事者となる関係をつくり続けること ⇒人と人のかかわりを耕し続けること

【講義 II】「地域の明日のために-地域づくりと社会教育/みんなが担い手の社会をつくる-」

東京大学大学院教育学研究科教授 **牧野 篤** 氏

1. 何が問われているのか

Well-beingとは、一人ひとりが幸せを感じられる状態にあること。

個人がWell-beingであればいいのか?個人と「社会と環境」のWell-beingを作るのが社会教育。Compassion (相手の身になること) が大事。「恩送り」は、自分への見返りを考えずに、相手にとって「よきこと」をすることをいう。次の世代を育むこと、社会をつなぐことになる。



2. 社会教育の概念を問う

社会教育という概念は、これまで学校教育との対比によって規定されてきた。

第4期教育振興基本計画の基本コンセプトでは、

「持続可能な社会の創り手の育成」「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」をうたい、社会の基盤を成すものとしてなくてはならないものとして示されている。社会教育は、地域コミュニティを基盤とする社会の土台である。人と人の「かかわり」や「つながり」の土壌を耕しておくという役割が強調され、それが社会の持続可能性およびウェルビーイングと結びつけられている。



3. 地域をつくる公民館・社会教育

社会教育に目的はない。社会教育がしっかりしていると、「目的」が生まれる。

4. 人は何が大切なのか 過疎地三つの空洞化 (小田切徳美) より

人の空洞化、土地の空洞化、集落機能の空洞化・・・が ⇒誇りの空洞化⇒集落の解体・自治体の解体⇒無住化へ

人はともに寄り添うことで、コミュニティを保ち続けることができる (一緒に走ってくれて、悩んでくれて、見捨てていませんよに、自分でやっている誇りがうまれる)

5. <社会> (「ふるさと」) とは「ひと」

6. 誰もが社会の当事者になるということ

益田市の事例から (カタリ場) ...

自分を受け止めてもらえていることが大事。社会に対して安心感や信頼感が生まれる。

7. 地域コミュニティの交差点をつくる

8. 価値多元化と共生のコミュニティへ

9. 社会教育主事 (社会教育士) の位置づけを考える

10. PDCAからAARへ

A: Anticipation (予期する) A: Action (やってみる) R: Reflection (ふり返る)

11. FOR ALLの上にBY ALLへ

12. 「はまる」と、「育つ」

(マズローの法則⇒ジグソーモデル) ...はまるとすごい力に

13. Be-ingであることでDo-erになる

社会のウェルビーイングが実現することで、個人のウェルビーイングが促され さらに社会がウェルビーイングな状態になる

(講義一部紹介)

【演習 II】「地域のより良い明日のために大切にしたいことを考えよう」

(ワールド・カフェ)

1 ラウンド目

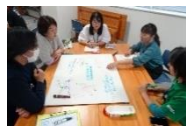
グループでテーマについて意見交換、模造紙に書き込む。

2 ラウンド目

ホスト役を残し、他のメンバーは別のテーブルに移動し新しいメンバーで同じテーマを話し合い模造紙に書き込む。

3 ラウンド目

元のテーブルに戻り、収集した情報を出し、さらに話を深める。



(出た意見)

- 対話の大切さ
- 地域の人とのやり取り
- 続けるため変化
- 関係値、事業、地域を俯瞰して見れている
- 雑談
- 認め
- ふり返り
- 立ち止まるタイミング
- 地域の人々が積極的に関わりが持てる場の提供
- 学ぶ姿勢が大事
- 固定観念をとっばらえ
- 楽しい、嬉しい、心地よいを感じてもらいたい

【講評】「地域の明日のために」 東京大学大学院教育学研究科教授 **牧野 篤** 氏

○愚痴を言い合う

発散する場所
新しいことが出てくる

○負担感を乗り越える

ex) 認知症患者の家族の会の場合

○お金で買えるものが少ないところは
お金で買えないものがたくさんある

【アンケートから】一部抜粋

- ・事例発表は、うなずくところがたくさんあり、私の担当地域は広瀬より小さな規模ですが参考にしたいと思った。
- ・館長と共有したいことがたくさんあった。職場での話し合いも大切にしたい。
- ・事例発表、講義、どちらも今自分が悩んでいること、モヤモヤしていることを考えながら聞かせていただいた。モヤモヤがスッキリし、明日から地域のためにやっていくことが整理できた。
- ・講義を聞いて、地域がお客様になっていると感じることがあったので、共感できるところがとてもあった。
- ・もやもやしていたことが、今日の研修で光が見えたようだ。事業の整理をずっとしたかったのだが、“変わらないために変わらなければいけない”という言葉で、自信を持って行える。
- ・社会教育とは何かをきちんと教えてもらえたような気がする。

【ふり返り】「新しい気づき・印象に残っていること」「やってみたいこと」

- ・人とのつながり = 生きる意欲、社会教育 = 社会基盤
- ・変わらないためにこそ 変えていくことが必要
- ・縮充 & 恩送り
- ・ウェルビーイング
- ・自分のストロングポイントを見つけた
- ・人と人のかかわりの土壌 耕すのは社会教育
- ・社会教育は“より良い社会をつくる基盤だ”をどう共有するか
- ・交流の促進
- ・地域の人とたくさん話す
- ・不易流行
- ・耕す人
- ・対話の大切さ